

# 2014年度 事業計画

(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

伝統のかおり 高き学園を目指して

学校法人 修道学園

## 2014年度 学校法人修道学園事業計画

### ＜法人本部＞

主要項目	具体策	実施月
1 鈴峯学園との合併推進	(1) 合併に必要な諸要件の整備	年間
	(2) 大学の新学科設置など合併後のマスタープランの策定と推進	年間
	(3) 両学園の給与・退職金等の処遇について対応を図る	年間
2 資産の運用	(1) 大学部 運用目標10億円	年間
	(2) 中高部 運用目標 1 億円	年間
3 施設の整備	(1) 大学部 8号館の竣工	3月
	(2) 中高部 修道学問所の蔵の竣工および文化財申請を行う	12月
4 寄付金募集	大学・中高部共、恒常的な寄付金募集について検討する。	年間

## 2014年度 学校法人修道学園事業計画

### ＜大学部＞

#### 【重点事業】

1. 鈴峯学園との法人合併の推進
2. 新学部・新学科の設置申請、組織改編、新カリキュラムの検討
3. 地（知）の拠点整備事業(イノベーションブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト) の推進
4. ひろしま未来協創センター、国際センター、学習支援センターの連携の推進
5. グローバルコースと地域イノベーションコースの実施と点検

主要項目	具 体 策	実施月
<b>I キャンパスマスタープラン</b>		
1. 8号館の建設、竣工、2015年度からの利用開始に向けての準備 【重点事業】	①4月から本格的な建設工事開始、3月9日竣工予定。 ひろみらセンター、国際センター、学習支援センター、心理学専攻実験室等の使用開始に向け準備を進める。 ②現3部署の事務室と4号館の活用方法を検討し、改修計画を策定する。	年間
2. 食堂棟、新学科に対応する施設の建設計画 【重点事業】	①新学科の教育施設の竣工時期、建設場所、施設の内容等を検討する。 ②食堂棟の改修計画を策定する。	2月
3. 鈴峯学園との合併、新学科設置に向け準備を進める 【重点事業】	法人合併・新学科の設置に向けて必要書類を作成し、学園全体の今後の財政見直しなどを策定する。	3月
<b>II 教育力の向上</b>		
1. 学士課程教育の充実、学習環境の改善 (1)GPA 制度の導入（具体的運用の実施）	2014年度前期成績から高機能GPA制度を実施する。システムの利用方法等について、前期成績から実施し、『学修の手引き』やガイダンスにおいて周知する。	年間
(2)成績評価の適正化（素点評価）	GPA制度による素点評価し、教育の質保証の維持向上のために、成績評価の実態を検証し適正化に努める。	年間
(3)新カリキュラムへの取り組み 【重点事業】	①2011年度に開始されたカリキュラムの検証し、2016年度カリキュラムを策定する。 ②2016年度カリキュラムの改正時期や方針について学長室と協議し、各学部(研究科)に対してカリキュラムのコンセプト作りを促す。 ③ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく、科目間連携の図式化(カリキュラムマップの作成)や教育成果指標の可視化についても検討する。	年間 年間 年間
(4) 教室環境の整備	机・椅子・AV機器の更新	年間
(5)グローバルコースの効果的な運用 【重点事業】	モチベーションを上げるための事業の実施（講演会、ワークショップ、イングリッシュキャンプ、ホームルーム等）	年間
(6)地域イノベーションコースの開講 【重点事業】	地域イノベーション教育担当教員を中心にコース科目を開講する。	年間

主要項目	具 体 策	実施月
2. 研究支援体制・大学院教育の充実 (1) 研究支援体制の充実 【重点事業】	①ひろみらシンクタンクの開設 ②ひろみら研究領域の助成 ③ひろみら論集の発行	年間 年間 3月
(2) 教員組織の充実	研究指導及び研究指導補助教員数を充足する。	12月
3. 情報環境の改善 (1) Sinet4 接続に伴う対外接続回線 変更	対外接続回線として利用している二つの商用プロバイダ回線のうちの 一つを廃止し、国立情報学研究所の運用する Sinet4 の回線を利用 する。	年間
(2) 各種サーバ・学内統合ネットワー クの更新	①教育研究用の教職員サーバ(ns1)他のサーバの更新 ②3号館始め各号館、本館・図書館、研究棟等既設建屋および8号館 のネットワーク機器を更新する。	6月 9月
4. FD・SDの充実 (1)FD・SD研修会の実施	①研修会の年間計画を立案する。 ②第4回修道力フォーラム(7月30日)を開催する。	4月 7月
<b>Ⅲ 学生の主体的取り組みへの支援</b>		
1. 8号館完成に伴う学生支援機能の 整備検討 【重点事業】	学習支援センター、国際センター、ひろみらセンターの学生支援機 能の拡充・整備について検討する。	年間
2. 学習支援体制の拡充	①学習アドバイザー業務の拡充 ②学習支援プログラム(ワークショップ)の拡充 ③主体的な学びを促す技法の学生への発信	年間 年間 年間
3. ピア活動の情報共有と連携強化	①学習支援のための学習ピアの養成・組織化 ②ピア・サポート活動の充実 ③SPA(学生就活アドバイザー)活動の強化 ④高校生に対する在学生の情報発信力を高める。 ⑤学生ピアの養成・組織化 ⑥ICLの活動の充実	年間 年間 年間 年間 年間 年間
4. キャリア形成支援の充実	①ポートフォリオシステム(ShuP)の利用を促進する。 ②認定インターンシップを拡大し充実する。 ③教員と協力し専門科目のキャリア教育を展開する。	年間 年間 年間
5. 進路・就職支援の強化	①就職率向上のため、ゼミ・演習教員、サークル顧問の教職員に、 年数回、学生の就職状況調査を依頼する。 ②留学生・大学院生への就職を支援する。	年間 年間
6. 図書館利用の促進	①ラーニング・commonsの活用促進 ②ブックハンティング、ビブリオバトル等の活用	授業期 年2、3回
7. 留学制度の見直し	①国際交流スカラシップ制度の見直しを行う。 ②事前指導科目の整合性を検討するなど、派遣の教育的効果を見直 す。(国際教育運営委員会での審議)	12月 12月

主要項目	具 体 策	実施月
<b>IV 連携の推進</b>		
1. 高校との連携の強化	高大連携授業の実施	7月
2. 地域社会との連携 【重点事業】	①ちいスタの開設（西区・廿日市・北広島） ②キックオフ・シンポジウム開催 ③ひろみら FES 開催 ④ひろみら会議、ひろみら部会、外部評価委員会の開催	年間 6月 2月 6月～3月
3. 卒業生との連携	①卒業生 CS（キャリアサポーター）の継続的募集及び卒業生との連携を強化する。 ②卒業生フォーラムなど、在学生への就職支援に関わる交流会等の一層の充実をはかる	年間 2月
<b>V 安全・安心のキャンパスづくり</b>		
1. 二輪車通学者への入構許可制導入に向けて	二輪車用交通マナー教育・実技指導の実施 規程等の検討	5月 10月
<b>VI 持続的成長に向けて</b>		
1. 新学部新学科の検討と申請 【重点事業】	①合併に伴う全学的な新学部・新学科の検討 ②各2種申請手続の準備	9月 12月
2. 鈴峯学園との合併推進 【重点事業】	①鈴峯女子中学・高等学校との連携 ②部局改組の検討実施	年間 4月～
3. 法務研究科のあり方 【重点事業】	法務研究科検討小委員会の答申を基にして、法務研究科のあり方について最終的な結論を出す。	前期
4. 中期事業計画の策定 【重点事業】	2015年度から18年度までの事業計画を策定する。	年間
5. 組織運営の見直し	①学長候補者推薦に関する申合せの改正 ②大学評議会のあり方の検討	年間 年間
6. 学生募集力の向上	①インターネット出願の導入・実施 ②周辺地域（三原、福山、岡山、松江地区）の志願者増を目指し、高校の重点訪問、駅広告掲出を実施する。	4月～ 4月～
7. 旅費規程等の検討・見直し	①旅費規程の検討・見直し（国外交通費） ②出張管理の検討 ③学外指導者のサークル支援活動支援制度の検証	年間 年間 年間
8. 寄付事業の見直し	寄附事業に関する情報収集、活動計画の検討	年間
9. 学校法人会計基準改正に向けての財務諸表等の見直しおよび財務システムの更新	①2015年4月より学校法人会計基準が改正されることに伴い、新基準による計算書類作成等に向けて準備する。 ②財務システムを財務課と連携して更新する。	3月 7月
10. 広報計画の策定	①インターネット出願開始の告知をはじめとし、受験生を対象とした広報の質・量を検討し展開する。 ②合併に伴う広報計画を策定	4月～ 9月

## 2014年度学校法人修道学園事業計画[単年度目標]〈中高部〉

### 【教員の部】

#### 1. 中高部の全体目標

大学進学実績を向上させる。

(東京大学20名以上、難関国公立大学60名以上、国公立大学医学部20名以上)

#### 2. 全体目標に関する各部署の重点目標と具体的施策

担当部署	重点目標	具体的施策
校長	大学進学実績を向上させるために、教員個々人の業務実態を把握し、教育環境の最適化を図る。	年度当初に教員全員と面接を行い、本校の事業計画の遂行と教員個々人の業務との関連性を検証する。
中学教頭	教学の目標である「知徳併進」に沿って、「ルールやマナーを守り、学習に取り組む姿勢」を徹底し、学力向上に資する観点から、教科、学年、各部署が正しく目標を把握し、目標にそった指導を行えるよう支援する。	生徒個々、クラス、学年、学校全体を意識して動向を注視し、適切な指導を行えるよう配慮する。教員個々、教科、学年、各部署の指導目標を理解し、効果的な指導を行いやすい環境をつくる。円滑な会議の運営に尽力し、充実した教育活動が行えるように務める。
高校教頭	各部・各学年・各教科の意思疎通をより緊密に図るとともに、保護者との連携を円滑に進める。	より深い意見交換のできる、実りある校務運営委員会の開催をめざすとともに、PTA委員会や地区会などを通じて、保護者との意見交換や、積極的な広報活動を行う。
教頭補佐	東大に20名合格させる進学校になるという最重要課題を達成するために、両教頭と連携して各部、各教科、各学年の具体的な取り組みへの助言、サポート、検証を行う。今後予想される大変大きな社会変革を乗り越えて、価値ある私学として発展を続けて行くために、教職員全体の意識改革を進めて行きながら、具体的な方策を考える。	本校におけるあらゆる教育活動が「様々な身体感覚のトレーニング」であるという考え方を共有し、生徒一人一人が有する様々な能力を継続的にバランスよく鍛えていく。各教科、各学年、更には班活動などの取り組みにおいて、それぞれが個別にそのための方策を考えるのではなく、学校全体で一つの大きな流れになるような方策を立案する。
進路部	現浪併せて東大20名以上合格の実現に向けて、東大「志望者」を増やすため、生徒に対する指導と広報に力を入れる。また、模擬試験対策により一層の力を入れる。	東大京大医学部進学対策室（兼広報室）を引き続き設置する。 各学年の模擬試験対策の詳細を調査し、全学年で情報を共有し、より成果の上がる対策方法を模索する。

担当部署	重点目標	具体的施策
生徒部	メリハリのある有意義な学校生活の実現を目指し、折り目正しい生活態度を涵養するとともに、主体的な生徒会活動を通して創造力や忍耐力を身につけさせる。	規範意識の育成、TPOをわきまえたマナーの向上、挨拶の励行などを念頭に置いた指導を心がけ、生徒の公共心や社会性を醸成していく。生徒会諸行事では、必要最低限の助言をすることとどめ、生徒が自ら考え、判断し、実行していくプロセスを重視する。
教務部	新システムへの移行に向けて、評価内規の見直しの方向性を定める。	プロジェクトチームを組んで、問題点の洗い出し、改定の方向性について検討する。
育成部	生徒が気持ちよく学習できる環境整備の一環として、ゴミの減量に努める。	廊下のゴミ箱の整備に併せて、プリント類を含めた不要私物は、家庭で廃棄するものであるという意識を生徒に持たせる。
第1学年	英語を核にして「自ら学ぶ主体(自分)」を育成する。	GTECの導入、ECの改革。「好きな科目」とするための授業・宿題の追及。
第2学年	「当たり前のこと」が「当たり前」にできる」訓練を継続し、「自治向上の精神」を涵養する。	「月間重点目標」を設定し、統一的・重点的に指導する。
第3学年	学習を含む学校生活の経験を通して、生徒各自に自らの進路を意識させるとともに、学ぶ集団として成長を目指す。	基礎学力の充実に主体性を持って取り組ませるとともに、進路指導や面談等で、将来の自分について考え、その実現に向けて努力させる。
第4学年	上級の学習につながるように、積極的に学習に取り組む姿勢や自分なりの学習スタイルを確立させる。	日々の課題により学習習慣を定着させるとともに、進路指導などさまざまな仕掛けを用意し、自主性・積極性を引き出す。
第5学年	生徒が各自の志望・目標に沿って計画を立て、主体的・積極的な態度で学習に取り組むようサポートする。基礎学力、特に語学の分野で多くの課題を持っているため、それらの克服に向けた学習指導を重点的に行う。	各教科で「いつまでに何をすべきか」を提示し、授業中心の学習を通じて、基礎学力の定着と、継続的・積極的な学習態度の涵養をはかる。中級で行った「朝学」および「土曜学習会」は継続実施する。
第6学年	生徒個人個人が、妥協ではなく本当の意味での志望校に挑戦し合格するための学力をつける。	学力向上のための計画的・継続的な学習。特に英語科の学習を中心に、「勉強は自分がやるもの」という意識を徹底させる。

担当部署	重点目標	具体的施策
国語科	古典の基礎学力の向上とともに、和歌の読解力を含め、平安女流文学に対応できる古典の高度な読解力を習得する。	月例テストでは基礎知識の習得に重点を置く出題をし、定期テストでは難易度の高い文章を多く出題する。
社会科	大学進学成績を向上させるために、上級の受験対策を見据えた教科指導の方法論・実践の発展につとめる。	上級学年・進路部との連携を強化し、生徒の志望動向を把握し、適確な教科指導を実践する。小教科を超えて、論述指導の情報を共有する。
数学科	各学年において基本事項の定着を図る。	年間進度予定表を提示し、計画的に既習内容の復習を行えるようにする。
理科 【物理】	高い学力を育成するため、学習意欲の向上を図るとともに、新課程に対応したカリキュラムを検討する。	新課程に対応したカリキュラムの検討により、詳細な年間計画を提示し、生徒自ら計画的に学習に取り組もうとさせることで、効果的な学習スタイルを身につけさせる。
理科 【化学】	難関大学受験に対応できる高い水準の学力構築を目指し、東大志望者を対象とした学習会を含めたカリキュラムを、体系的に整備する。	中3時後期から高校教材を用いることにより、高校3年6月に教科書を終了させ、問題演習時間を確保するとともに、3年後の新課程大学入試に向けてもカリキュラムの整備を行う。
理科 【生物】	『自然に生きる生物』から、『学問としての生物』までの興味を喚起する。	断片的な知識の詰め込みに終わらないよう、関連する事項と常につなげながらトータル的な視点で理解させる授業を展開する。
理科 【地学】	センター試験受験者の内、成績が中・下位層の底上げし、集団の質的向上を図る。	6年の早い段階から地学基礎の復習に入り、問題演習の量を多くする。 地学基礎のカリキュラムを整備し、5年時で終了させることを目標とする。
英語科	「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能のバランスを意識しながらリスニング力を向上させる。	(授業の種類に関係なく)毎回の授業で語彙習得演習と平行して、音読およびディクテーションの演習を行う。
芸術・技術・家庭科	各教科の特性を生かした授業を通して「豊かな感性」と「価値観」を育てる。	成長段階に応じた知的好奇心を喚起させる授業内容・展開を工夫する。
保健体育科	日常活動の基本となる軸のしっかりした身体、および自分の姿勢・位置を感知できる運動感覚を育成する。	全ての学年で、年間を通じて体育授業の開始5分間、体幹（インナーマッスル）を中心としたトレーニング、および倒立などの基礎的器械運動を実施する。

## 【職員の一部】

主要項目	具体策	実施月
1. 職員の能力開発と業務改善 (1) 事務組織の活性化と業務の公平化	事務組織や業務内容の見直しを行う。	年間
2. 財政 (1) 財政健全化策の検討	中長期の財政の見通しに基づき、財政健全化に向けての諸施策を検討する。	年間
3. 財務課 (1) 学校法人会計基準改正への対応 (2) 高等学校等就学支援金制度改正への対応 (3) 業務の見直し (4) 財政の健全化 (5) 寄付金募集の検討 (6) 施設・設備関連 ① 修繕計画の策定  ② 「修道学問所之蔵」の対応	2015年度からの改正に対応できるよう準備を行う。  改正に対応できるよう計画的に業務を行う。  近年の財務課の業務量増加への対応策を検討する  資産運用について、金融情勢を考慮し、より有利な条件で運用できるよう検討する。  恒常的な寄付金募集について研究する。  築後10年を経過した建物の修繕について具体化させ、併せてプール改修及び本館建替えも視野に入れた修繕計画の見直しを行う。  「修道学問所之蔵」の竣工及び文化財申請への対応を行う。	年間 年間 年間 年間 年間 年間 年間
4. 規程の整備 (1) 諸規程の整備	① 大学部と連携をとりながら、規程の整備、見直しを行う。	年間
5. 職員の能力開発 (1) 能力開発と業務改善	研修会等に参加し、個々のスキルアップを図る。	年間
6. 300周年学園史 (1) 学園300年史編纂準備作業	① 学園史編纂に向けてのスケジュール、方針等を検討する。 ② 編纂委員の選任・委嘱を検討する。	年間